

前進ラグビー



ラグビー部監督
伊東 真吾

ラグビー後援会の皆様方には、日頃より物心両面にわたり温かいご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

今年の夏は、リオオリンピックで、沢山の日本人選手が、大活躍をしました。体操、柔道、レスリング、卓球、バドミントンなど多くのメダルを獲得しました。特に男子七人制ラグビーの試合は、本当に驚きと感動でいっぱいでした。ニュージールランドと、フランスに勝つと誰が思ったでしょうか。日本チームのオリンピックまでのビジョンとプランニングが選手に浸透し実行できた結果だと思えます。

今年度は、学校スタッフが変わり、前BKコーチの池田雅之先生が転勤になりました。池田先生には、七年間秋田工業ラグビーのコーチをしていただき、大変感謝しております。代わって、秋田高校、早稲田大学、トヨタ自動車で活躍された内藤慎平先生を迎えてBKのさらなる強化に努めています。今年のチームは、高校日本代表候補の四人、HOの濱野、NOSの桑原、FBの猿田、CTBの児玉がいます。ケガのため、この四人がそろつての公式戦は、これまで一度もありませんが、全国の強豪チームと闘えるチームであります。チームスタイルは、「前進ラグビー」でセットプレーから前進を図り、ヨットという攻撃オプションで速いテンポのラグビーを目指します。また、DFでは、前にでる（前進）突き刺さるタックルで相手のスクラムとタックルに拘り秋工のスタイルを確立していきます。

今年度のこれまでの結果ですが、全県総体等では、秋田県負けなしの結果でしたが、東北大会では、三位という不本意な結果になってしまいました。今一度、DFシステムの確認とゴール前での決定力を身に付けていかなければならないと考えています。夏合宿では、「限界からの挑戦」というテーマで、攻撃と防御についてFWとBKが目標を定めて練習をしてきました。菅平合宿では、花園常連校と対戦し、それぞれチームスタイルが違うものの、DF面では、秋工のシステムが確立できてきたと感じています。また、全国のチームと対戦することができ、スピードや強さ、ワイドラインなど、高いレベルでの経験という貴重なものを得ることができました。

- 秋工A 12対26 石見智翠館
- 秋工A 14対34 佐賀工
- 秋工A 0対33 大阪桐蔭
- 秋工A 12対0 春日丘
- 秋工A 27対33 全広島
- 秋工A 12対12 京都成章
- 秋工A 31対12 久我山
- 秋工A 5対19 天理

今後の予定は、九月の中旬に京都工学院高校（伏見工業）と東海大仰星と練習試合を行います。京都工学院は、春の選抜大会で大敗しています。また、昨年度全国優勝した東海大仰星とどこまで闘えるか楽しみです。そして、花園予選大会では、今年度のビジョンとプランニングの成果をきちんと発揮し、必ず花園に出場します。花園大会では、秋田工業ラグビーの魂を前面に出し、スクラムとタックルで勝利をつかみます。後援会の皆様は勿論のこと、ラグビーファンの皆様、また、秋田県民の皆さんに、元氣や勇氣、感動を与える試合をお願いします。最後になりますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

秋工ラグビー部

赴任にあたって



ラグビー部コーチ
内藤 慎平

今年度より秋田工業高校に赴任し、ラグビー部のスキルコーチを担当することになりました。内藤慎平です。

まずは、ラグビー後援会の皆様方におかれましては、日頃より物心両面にわたりラグビー部への温かいご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。私自身は高校を卒業後、大学・社会人でプレーする機会を得ることができ、二〇一〇年度シーズンまで現役を続けていました。引退後は社員として五年間働いていましたが、兼ねてからの希望であった「地元秋田でラグビーを教えたい」という想いが強くなり、本年四月より教員としての第二の人生を歩み始めることができました。

今回、この伝統ある秋工ラグビー部で指導者としての第一歩を踏み出せることを大変光栄に思います。おそろしく、本校ラグビー部OB以外の教員がコーチに就任するのは近年では異例のことではないでしょうか。プレッシャーもありませんが、一年目から全国優勝を目標とするチームを指導できる機会を与えていただいたことに、大きな喜びを感じています。この環境にいることへの感謝、そして自分がこのチームにいる意味と重みを忘れることなく、日々の練習に全身全霊で取り組んでいきたいと思えます。赴任から約半年が経ちましたが、今年のチームはFW・BKで軸になる選手

手があり、関西や九州など全国の強豪とも勝負できる戦力ではないかと思えます。三年生を中心に、それだけの可能性を持っていると感じます。勿論、春から思うような結果が出せない試合が続く、優勝を目指した東北大会で準決勝敗退に終わるなど、右肩上がりの成長曲線を描けてはいません。しかし、菅平の夏合宿では取り組んできたDFに一定の感触を掴むことができ、伊東監督・コーチ・選手ともに強化の方向性が間違っていないことを確認できました。全国のトップクラスに勝つためにはまだまだ厳しき・激しさを求めていかななくてはいいませんが、小さな変化が起り始め、良いサイクルが徐々に回り始めています。

ここから、このチームが全国で勝つためには、攻守の速いテンポ・スピードへの順応や個々の強みを活かした戦術の統一、対戦相手の分析が必要となつてきますが、最も重要なのは日々の練習にどれだけ緊張感や激しき、意識の高さを持てるかに掛かっています。試合以上の練習、すなわち「練習の試合化」を最大限まで高められれば、試合でこのチームの実力を十分に発揮でき、結果も自然と付いてくると思っております。

最後になりますが、十月の県予選では過去二年の雪辱を晴らし、必ずや三年ぶりの花園への切符を手にとりたいと思えます。そして、冬には全国の舞台で応援してくださる方々の期待値を超える「強い秋工ラグビー」を見せられるよう、一日一日グラウンドで勝負していきたいと思えます。引き続き、温かいご支援、ご声援を宜しくお願いいたします。